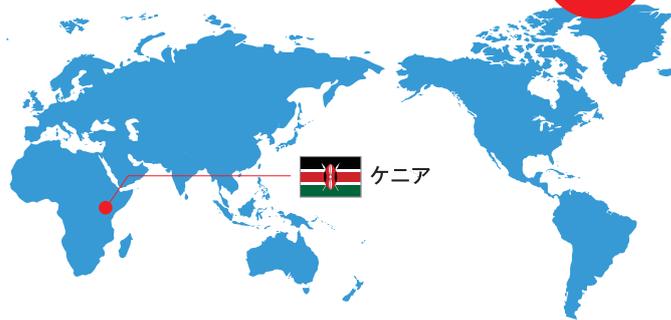


## 開発途上国の課題解決で ビジネスチャンスをつかむ



静岡県



## ケニア産の「緑茶」を世界ブランドに育てる



### 製茶機メーカー3社がタッグ 工場稼働も間近

創業以来の刃物技術を備えた当社の摘採(てきさい)機による省力化に加え、従来の手摘みでは切り口断面がざらつき酸化が進みやすかった原料生茶葉の品質を高め、次いで寺田製作所の荒茶製造機により蒸し・揉み・乾燥工程を自動化し、安定した色と味、香りを実現します。そして静岡機械製作所の仕上げ機により商品の価値に影響する異物を除去、形や比重による選別で商品としての価値を高めます。

現在、JICA事業によりケニア初の緑茶製造設備を稼働させる準備を進めています。開所式には欧州のバイヤーも招き、緑茶人気が高い欧州でもケニア緑茶のブランド力を高めたいと考えています。

ケニアで、主に茶が栽培されている地域は標高が高く、気象条件により有機栽培に適していることも世界ブランド化に向けた大きな利点です。今後は機械化できない、職人的なノウハウも教えないがらケニア緑茶を育てていきたいと思えます。

### 世界1位の輸出国 課題は多品種、高付加価値化

当社は日本有数の茶産地である静岡県で茶摘み機を中心に茶園管理機の製造と販売を手がけています。私は貿易部に所属し、紅茶生産が盛んな東アフリカでの市場開拓を進めてきました。ケニアは世界1位の輸出量を誇る紅茶生産国ですが、大量生産用のティーバッグ用茶葉が生産量の99%をも占め、多品種化や高付加価値化による価格改善が産業育成や労働者の生活向上のための大きな課題になっています。

ケニア進出を検討していた過程でJICA事業の公的支援の存在を知り、お茶どころ静岡で培った技術でケニアに近代的な緑茶生産を導入するプロジェクトを開始しました。緑茶は新鮮な生葉を手早く蒸し、乾燥により荒茶(あらちゃ)とした後、選別・付加価値を担保する製法工程により完成します。それぞれの工程で高い技術を持つ県内企業に声をかけ、3社合同で事業に取り組みました。



合同で事業を進める落合刃物工業の和田充広さん(右)、寺田製作所の山野辺章さん(中央) 静岡機械製作所の栗田正巳さん(左)



JICA事業で目指す  
SDGs GOALS



落合刃物工業株式会社

静岡県菊川市西方58

貿易部長 和田 充広さん

お問い合わせ先

JICA(ジャイカ)中部  
企業連携課

☎052-533-1387(直通)

✉cbictps@jica.go.jp